

# 非常利法人ニュース

2020年  
2月号  
Vol. 83



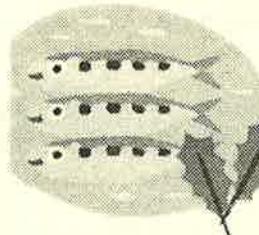
発行

公益織研 非営利法人総合研究所  
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル  
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814

(特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

...★★ 新刊書籍情報 ★★ ...

待望の第2次改訂版 好評発売中！！



★★ 返済のない奨学金のお知らせ ★★

## 【1】「中村道子奨学金」

### 『介護福祉士を目指し専門学校へ進学する高校3年生対象』

- 募集期間：2020年2月末日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2020年度の奨学生は3名程度を採用とする。
- 応募資格：2020年3月卒業見込みの高校3年生  
2020年4月に一都三県（東京・神奈川・千葉・埼玉）の介護福祉士を目指す専門学校へ現役で進学すること
- 給付等：専門学校2年間（24か月）、年額50万円を支給します。

★★ 助成金のお知らせ ★★

## 【2】HTM基金

- 助成目的：健康で幸せな人々の暮らしを守るために、障がいや病気を抱える人々とそのご家族に対しサポート活動をしている団体に助成支援を行い、公益の増進に寄与する。
- 助成対象：障がい、病気に悩む人々とその親が抱えている様々な医療・福祉上の支援活動を行っている日本国内で活動する次の法人
  - ・公益法人（公益社団法人又は公益財団法人）
  - ・一般法人（一般社団法人又は一般財団法人）
  - ・NPO法人
- 助成件数：3件～5件
- 助成金額：1件あたりの助成金上限は原則として30万円以内  
※パソコン・カメラ等の耐久消費財や10万円以上の物品の購入、常勤スタッフの人事費等の経常的経費は対象外
- 助成期間：単年度（2020年4月1日から2020年12月末までの間に行われる事業が対象）
- 募集期間：2020年2月3日（月）～2020年3月31日（火）※当日消印有効

## 【3】JM基金

- 目的：子どもの心と体の健やかな成長を願い、子ども社会に格差ない「平等の機会」を支援することを目的に作られました。  
本年度は子どもたちをめぐる課題を解決し、子どもたちが自らの力で未来を切り開いていく活動を支援する団体に対して、そのサポートをするために助成を行います。
- 助成対象：日本全国において子どもたちに対する支援活動を行う団体で以下の要件を満たすもの。
  - 1 無料学習支援、電話相談、子育て家庭訪問、居場所づくり、遊び場づくりなどを行う団体
  - 2 営利目的でない事業であること
  - 3 法人格の有無は問わないが、法人格があることは望ましい
- 助成件数：10団体程度
- 助成金額：1件あたり30万円以内
- 募集期間：2020年2月10日（月）～2020年4月10日（金）※当日消印有効

◎情報満載！今月のもくじ◎

新刊書籍情報	1
奨学金・助成金情報	1
非営利法人関連情報	2.3
CEOコラム	4
編集後記	4

## ☆奨学金・助成金応募先等☆

- 【1】中村道子奨学金
- 【2】HTM基金
- 【3】JM基金

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先  
〒105-0004  
東京都港区新橋6-7-9  
新橋アイランドビル2階  
(公財) 公益推進協会

- ・中村道子奨学金
- ・HTM基金
- ・JM基金
- 担当 高野宛

お問い合わせ  
03-5425-4201  
(問合せ対応時間：平日10時～18時)

※応募手続き：応募用紙は、当財団ホームページ(<https://kosuikyo.com/>)よりダウンロードし、必要事項を記入した応募用紙と添付書類を郵送してください  
※その他応募に必要な書類、選考方法等、奨学金・助成金に関する詳しい情報は、財団ホームページ (<https://kosuikyo.com/>) をご覧ください  
※奨学金・助成金情報はリンクフリーですので、ご自由にリンクしていただき情報提供をお願い致します

## ★非営利法人関連情報★

### 中山教授「バテた」IPS細胞に支援呼びかけ

2日の別府大分毎日マラソン大会で、京都大IPS細胞研究所所長の中山伸弥教授(57)が2年ぶりに出場した。完走後、同研究所の基金をPRするTシャツに着替え、再生医療の普及や難病治療薬の開発を支援するための寄付を呼び掛けた。

フィニッシュ後は「バテた」と大きな声を上げた中山教授。2度目の別大挑戦となった今回は「天気も良く、風も穏やかで、気持ちよく走りすぎて25キロ付近からきつくなりました」と苦笑い。同研究所は、限られた財源の中でIPS細胞(人工多能性幹細胞)の実用化を目指しており「難病患者のことを思い、絶対に棄権できないと思った。また参加したい」と笑顔で振り返った。(毎日新聞 2月2日)

### 宮古で19年度収容犬殺処分ゼロ継続中

宮古保健所がまとめた2019年度(1月末現在)における同所管内の犬の収容状況によると、終末処分件数は1件のみで、それも収容時にすでに衰弱していたことによる死亡だったことから、殺処分数については「ゼロ」となっていることが分かった。しかし、収容数は相変わらず多く、同保健所では野犬の発生を防ぐためにも放し飼いをしないなど、適正な飼育を呼び掛けている。同所管内における年間の終末処分(殺処分)件数は、14年度に300匹を超えたが、15年度は325匹。これは東京都の1年間の処分件数を上回っていた。こうした状況を打開しようと、民間ボランティアが立ち上がり、収容された犬を島内外に譲渡する活動が16年度ごろから本格化。同保健所と連携した取り組みで、16年度の終末処分件数は、前年度の325匹から大幅に減少し141匹となった。さらに、活動が充実してきた17年度の処分頭数は16匹に減少。さらに、18年度は4匹と1桁台となり、19年度は「ゼロ」を継続している。一方で、こうしたボランティアと保健所の取り組みをよそに、収容件数はいまだに高い数値で推移している。犬の収容数は年間200~300匹で、14年度からはほぼ300匹台で推移してきた。今年度も1月末現在で230匹となっており、今年に入ってきたらも12匹が収容されている。(宮古毎日新聞 2月6日)

### 伝承館・存続の危機 NPO、市に運営返上

浜松市天竜区佐久間町の観光名所の一つである佐久間民俗文化伝承館のそば処が3月末に閉店することに伴い、2015年度から同館を管理してきた地元NPO法人「歴史と民話の郷さまで守る会」が、3月末で施設所有者の市に管理運営を返上することを決めた。天竜区役所まちづくり推進課の担当者によると、閉館の可能性も含めて今後の運営を検討するという。同館は1990年、地域の伝統の継承を目的に旧佐久間町が町内に残っていた江戸時代の農家を移築して整備し、合併後の浜松市が2013年、行財政改革の一環で民営化や住民運営への移行方針を示した。「受け皿がないと廃止になってしまう」と危機感を強めた住民有志が集い、同法人を発足。15年度から、中山間地域まちづくり事業の交付金や施設管理の補助金を受けて運営を担ってきた。町内の語り部による民話を語る会や民俗芸能の魅力を広める観月会などの開催に尽力してきたが、15年に国道473号「原田橋」が崩落、18年には同区龍山町の国道152号の土砂崩れが発生し、交通不便による来館者の減少に苦しんだ。館内では在ソバを使った地そばを提供している女性グループ「野田やまびこ会」が施設維持に協力してきたが、売り上げの減少や会員の高齢化などを理由に3月末での撤退を決定。法人も事業期間を満了する本年度末で運営から手を引くことにした。同法人の奥山浩行理事長(83)は「苦渋の決断だった。市が一度は管理を手放した施設なので、今後どうなるか」と声を落とした。(静岡新聞 2月6日)

\* 内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

### 4月から受け付け 万博へ2025年の桜植樹

大阪府・市などは29日、2025年国際博覧会(大阪・関西万博)の機運醸成を目的に2025年の桜を植えるプロジェクトのため、4月から寄付を募ることを決めた。大阪市中心部から万博会場となる人工島、夢洲(ゆめしま、同市此花区)へのルートなどを中心に植樹する方針。寄付は一口1万円で郵便振替のほかクレジットカードなどで受け付ける。寄付した人は桜の支柱に設置するプレートに名前を記載できる。

府・市や関西の経済団体などでつくる実行委員会の委員長に建築家の安藤忠雄氏が就任。安藤氏は「大阪はもともと桜の都。博覧会を2回やった街として未永く人々の心に残る原点になってほしい」と期待した。

(日本経済新聞 1月29日)

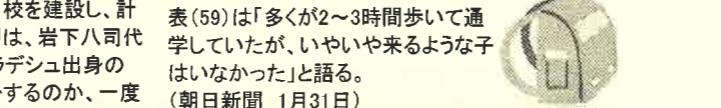
### 謙信の愛刀購入へ寄付5億円達成

岡山県瀬戸内市は27日、戦国武将上杉謙信の愛刀で「山鳥毛」の愛称で知られる国宝「無銘一文字」を購入するための寄付が目標の5億1309万円に達したと発表した。主にふるさと納税によるもので、今後は議会の承認を得て、所有者と売買契約を結ぶ。展示は4月以降のできるだけ早期を目指す。山鳥毛は、同市を拠点とした刀工が鎌倉時代中期に作ったとされ、山鳥の羽毛のように乱れた刃文が特徴となっている。目標額は26日に達成。1万4千件を超える市内外の個人や企業から、寄付品などを除いた金額で5億6838万円が集まった。余剰分は保管先の整備に活用する。



### カレーでバングラデシュに学校建設 NPO

バングラデシュの教育を支援するNPO法人「P. U. S. バングラデシュの村を良くする会」(兵庫県丹波篠山市京町)が、本場の味をレトルトパックに閉じ込めたカレーを販売している。「6千個売れると現地で小学校が1校建つ」といい、1個千円。開発には、同法人メンバーが熊本地震の被災地で出合った現地の障害者支援施設が協力した。同法人は1985年から活動。これまでに現地で小学校21校を建設し、計1万人以上の生徒が学んだ。始まりは、岩下八司代表(70)が大阪で知り合ったバングラデシュ出身の研修生に「なぜ自分たちが稼ぎをするのか、一度国を見て来てほしい」と言われ、現地でホームステイしたことだった。活気のある魅力度な国だが、文字を読めないために財産を奪われたなどの話を聞き、教育支援の必要性を感じたという。岩下代表は妻の啓子さん(70)らと寄付を募り、水害で壊れた小学校などの新築を支援。年間1万6千円で子どもの就学を支援する「里親」も募集している。同法人が営む「だいじょうぶ屋」(同市京町)では現地で作られた衣類や小物も販売する。同店では毎週土日、岩下代表がホームステイ中に教わったバングラデシュカレーを手作りして販売中。シナモンやガラムマサラなど現地の香辛料をたっぷり使い、ニンニク、合いびき肉と炒めたスパイシーな仕上がりだ。今回開発したレトルト商品も、その風味を生かした。手作りの味を再現するため何度も試行錯誤し、昨年5月に完成した。これまでに売れたのは約700個。バングラデシュの村は毎年のように水害に見舞われるが、教育施設の整備は後回しにされがちだという。岩下代表は「カレーでバングラデシュに親しんでもらい、広く支援を集められたら」と話す。



### NPOが山岳遭難で民間救助ヘリの構想

山岳遭難防止に取り組む長野県白馬村のNPO法人「ACT(アクト)」が今夏、民間ヘリコプターをチャーターして山岳遭難者を救助する活動に乗り出す。険しい岩場の転落といった重傷事故ではなく、ヘリポートがある山小屋まで自力でたどり着ける軽傷や病気などの遭難者が対象。会員制のサービスで、安全登山への意識向上が目的だ。計画では、遭難者の救助依頼を受けたアクトが、民間のヘリコプターから機体をチャーターして救助活動に入る。条件としては、アクトが提携する山小屋のヘリポートまで遭難者に来てもらい、長野県大町市のヘリポートを経て、病院に搬送する。ヘリの費用は山岳保険で賄う。当面は、北アルプス常念岳(2857メートル)近くの常念小屋など数軒の山小屋で実施する。警察庁によると、2018年の全国の山岳遭難は2661件、遭難者は3129人にのぼり、統計の残る1961年以降、最多となっている。件数、人数ともに10年間で約1.5倍と急増。一方、死者・行方不明者は横ばいで、無事救出された人の増加が目立つ。

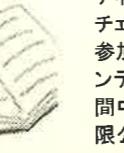


(朝日新聞 2月2日)

### 泉佐野市の申立て却下 特別交付税減額

総務省は24日、大阪府泉佐野市が特別交付税の減額を不服として行った、地方交付税法に基づく審査の申し立てを却下したことを府を通じ同市に通知した。審査申し立ては、交付税の配分額の計算ミスへの不服が対象で、同市が訴える算定方法への不服は該当しないと指摘、配分額の変更などは行わないとした回答だ。総務省は、ふるさと納税で多額の寄付を集めた泉佐野市を、交付税を受け取らずに財政運営できる「不交付団体」並みの財政力があると判断。特別交付税の算定方法を見直し、同市の2019年度12月分の配分額を前年度より4億2792万円少ない710万円とした。これに対し同市は、寄付収入から返礼品代などの支出を差し引くと、ふるさと納税の年度収支はマイナスが見込まれると主張。算定方法の見直しは同市を「ターゲットにしたものだ」と批判していた。

(時事通信 1月24日)



### ムスリム向けの おもてなし学ぶ

イスラム圏からのインバウンド(訪日外国人客)が増え、ムスリムへのおもてなしを学ぶ勉強会が24日、富山市総曲輪のNPO法人「まちづくりスピット・まちスボトやま」であった。岐阜県高山市の食品卸会社「清水弥生堂」の4代目で「飛騨高山ムスリムフレンドリープロジェクト」を率いる清水大地さんが講師となつた。清水さんは冬の観光業活性化のため、ムスリム向けの食事メニュー開発に取り組んだ経緯を説明。ハラール対応の「飛騨牛」や、豚肉の代わりに大豆を使ったラーメンなどムスリムの旅行者が安心して食べられる食事を提供し、「普段出しているメニューに少し改良を加えただけでムスリムが手軽に高山を楽しめる環境をつくった。あらゆる思想、体質の人に対応できることが今後重要な」と話した。マレーシア出身で富山大に留学中のアハマド・ブスタマンさんによるムスリム文化のレクチャーもあり、参加者は熱心にメモを取っていた。

(中日新聞 1月25日)

### 芸術家用「清島アパート」入居者募集

別府市のNPO法人「BEPPU PROJECT」は現在、居住しながら芸術創作活動ができる「清島アパート」の2020年度入居者を募集している。次のステップを目指すアーティストらが対象で、「本格的な芸術への道と別府への『入り口』として利用してほしい」と呼び掛けている。同NPOが2009年から手掛けている芸術支援活動の一環。戦後すぐに建てられたというアパートを活用し、アーティストやクリエーターが低料金で借りられるよう運営・管理している。

利用者には、創作や作品発表用(1階)と居住用(2階)の2部屋を貸し出す。広さは共に約6畳。キッチン、トイレは共同で、1階と2階に供用スペースがある。風呂は付いていない。利用期間は4月8日から2021年3月31日まで、再度、申し込みれば更新も可能。料金は月額1万円(無線LAN費用、水道光熱費など含む)。これまでの入居者は延べ200人を超える。ジャンルは絵、映像、写真、ダンス、服飾、落語などで、退去後も別府を拠点に活動を続ける人もいる。2019年度の利用者は8人。出身地は東京都、神奈川県、岐阜県2人、大阪府、兵庫県、福岡県、大分県。募集対象は、芸術家として活動をしている18歳以上(高校生以下不可)の個人(団体可)で、国籍は問わない。「清島アパートの可能性を開拓できる」「地域住民との関わりを大切にできる」「秋の芸術祭で展示公開する」などの条件がある。入居希望者は規定の応募用紙に記入し、過去の作品を添えて2月17日までに郵送する。

(大分経済新聞 2月4日)

### 夜勤でマスク作る上海のボランティア

「夜勤12時間で、私たちボランティア20人はマスク30万枚を生産した!」。ここ数日、上海松江区車■鎮(■は土へんに敦)にあるマスク工場では、上海各地から車を数十台走らせて駆けつけた外資系企業の最高財務責任者(CFO)、起業家、大学生、聴覚障害者など、さまざまな背景の人々が、12時間眠らずにマスクを生産し続けている。「新型コロナウイルスの感染状況に際し、マスクは今最も不足する物資の一つとなっている。機械が止まらない限り、作業員の手も止まることはない!」と、この作業場では、各機械をフル稼働させ、1分間にマスク約50枚が生産されている。10枚ずつまとめ、50枚一組にして、1箱に5000枚入れる。生産ラインでは、ボランティアがリズムに合わせてマスクの質を1つずつチェックし、箱詰めなどの作業を行っていた。作業に参加しているのは、緊急要請を受けて集まつたボランティアたちだ。春節(旧正月、今年は1月25日)期間中、上海松江区にある美迪康医用材料(上海)有限公司は、マスクを大量生産しなければならないものの、従業員がまだ休暇から職場に戻ってきておらず、人手不足が解決急務の問題となっていた。それを知った上海のある民間非営利組織の責任者・周蓉さんは同社に連絡し、ボランティアを派遣して、夜間の生産をサポートしたいと伝えた。(新華社通信 2月6日)

### こども園の建設現場に障害者の絵—伊豆

伊豆市立修善寺東こども園の老朽化に伴い、新こども園および併設する児童発達支援センターの建設工事の現場に、障害者が描いた絵画が飾られた。障害がある人々や、病と闘う子どもたちをアート(芸術)を通じて応援し、社会や企業とつなげる活動に取り組むNPO法人アートコネクトしづおかが仲介し、施工業者が協力した。同NPO会員の山口美奈子さんは市に打診し、紹介された施工業者の土屋・中豆・イズケン特定建設工事共同企業体が快諾。アート看板設置のための費用を負担した。展示する絵画は同NPOが仲介し、地元の駿豆豆園の利用者が描いた作品を使用した。絵画にはパンダや象、キリン、ウサギなどさまざまな動物が生き生きと描かれている。山口さんは「障害がある人が、将来お金を手にして生きていくことは大変。芸術という面では障害がある人も同じなので、その道を開くための手伝いが少しでもできれば良い」と活動に対する思いを語った。

(伊豆新聞 1月23日)

### 札幌での五輪マラソンあと半年 課題山積

8月6~9日の東京五輪マラソン・競歩の札幌開催まで、6月で半年と迫った。昨秋の突然の開催地変更から3カ月余り。同規模のマラソン大会と比べて準備期間が限られるが、大会組織委をはじめ、開催を支援する道や札幌市は準備作業は順調と強調する。ただ大通公園などコースの沿道は屋外広告を厳しく規制する予定。マラソンの周回コース内に救急患者が発生した場合の対応や、数千人規模で新たに必要になるボランティア、警備員の確保など、調整が必要な課題も山積している。だが、国内の国際的なマラソン大会は準備に1年以上かけるのが通例で、約9カ月で本番を迎えるのは異例だ。雪のためコース計測は行えておらず、運営体制を確認するテスト大会の日程も決まっていない。競技運営を手伝うボランティアは、マラソン・競歩の開催で新たに最大2千人規模で必要になるとされ、今月下旬にも組織委が募集人員、方法などをまとめる見通し。会場周辺や選手団の宿泊先などに配置する警備員も多数必要で、北海道警備業協会の岡豊彦専務理事は「必要な人員の規模はまだ不透明。人員を確保するまであまり時間がないが、協会会員企業の協力をお願いして対応したい」としている。(北海道新聞 2月6日)

### 中国へマスク寄付 日中友好協呼び掛け

新型コロナウイルス感染が中国で急速に広がっていることを受け、羽田中友好協会(羽咲市)は、同市と友好都市の同江市江蘇省南通市通州区にマスク4千枚を送った。追加でさらに4千枚を送ることを目標に、広く寄付を呼び掛けた。通州区は、発生地の湖北省武汉市から東に700キロほど。マスクは1月30日に発送し、現地の担当者からは「羽咲市民に感謝します。感動しました。通州区民もがんばります」という旨のメールがあったという。同区とは、1983年に市日中友好市民訪問団が南通市を訪れて以来の交流で、2001年に友好都市となつた。協会相談役の河崎祐彦さん(68)は「困っているときにお互いさま。人道支援として、國の区別なく支援しようという気持ちはある」と訴え、一箱でも多く集まる事を願っている。(中日新聞 2月2日)

### 日本最古の映画館 2号館開設へ

現存する日本最古の映画館とされる「高田世界館」を運営するNPO法人「街なか映画館再生委員会」は26日、妙高市内での2号館開設を目指し、商業施設「さん来夢あらい」1階に準備室を開設する。毎月6が付く日に昔懐かしい映像による「街の記憶アーカイブ上映会」を開き、一堂に集つて映像を観賞する魅力を感じてもらおう。同NPOは上越地域で映画を日常的に見る人たちを増やそうと、昨春から2号館の開設を検討してきた。夏には往年の名画の上映会を開き、想定を上回る来場者を集めた。同NPOの人手不足もあり、準備が遅れていたが、こじは準備室を起点に本格的に開設に向けて進めていく。2号館は20~30人程度を収容し、簡易的な設備で映画や記録映像を上映する場所になる予定。上映会は、毎月6、16、26日にさん来夢あらいで地域住民の交流サロンを開いている妙高市シルバー人材センターと協力して行う。地元の昔の写真や映像の募集を呼び掛け、2号館開設へ機運を高めていく。同NPOの岸田國昭代表(56)は「昔の記録を集め、みんなが楽しめる形で残したい。2号館は今年中に開設したいが、長い目見てほしい」と話した。(新潟日報 1月24日)

### 保護プラ「抱っこ係」のボランティア募集

米サウスカロライナ州の動物保護施設が、保護プラたちを人に馴れさせて里親を見つけるために、プラと触れ合うボランティアの「プラ抱っこ係」を募集している。同施設は2018年12月、米ケンタッキー州で虐待され、放置されていた豚225頭を救出した。このうち100頭あまりはペットとして引き取ってくれる里親を探したい意向で、これまでに75頭の引き取り手が見つかった。しかし残ったプラたちは、里親を見つける前に、人との良好な関係を築いてもらわう必要があると判断した。同施設のジョシュア・カーペンター・コスナーさんはこうしたプラについて、「多数のアヒマド・ブスタマンさんによるムスリム文化のレクチャーもあり、参加者は熱心にメモを取っていた」と話す。同施設のフェイスブックによれば、ペットとしての生活に馴れさせるため、ボランティアにはプラと一緒に遊んだり、餌を与えていたり、お腹をなでたりしてもらう計画。「プラ抱っこ係」募集の広告では、「プラたちに話しかけてもらおうだけでも、新しい家庭に引き取られる準備ができます」と呼びかけている。ボランティアの申し込みは世界中から寄せられた。「向こう数カ月の予定が全部埋まつたため、触れ合いのための時間枠を増やすなければならない」とカーペンター・コスナーさんはうれしい悲鳴を上げている。夫のエバン・コスナーさんも、自分たちでプラを引き取った経験から、「犬や猫と同じような経験や感情表現ができる」と太鼓判を押している。(CNN 2月3日)

公益総研株式会社 首席研究員兼CEO  
公益財団法人公益推進協会 代表理事  
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



つい先日、第201回国会で行われた、我らが安倍ちゃんの施政方針演説を、敬意を表して、恒例の福島式「ほんとの心は？」を（カッコ）に入れてご披露しようと思う。もちろん、独断と偏見に基づくものであり、笑納していただければ幸いだ。くれぐれも内閣官房などに問い合わせないでいただきたい（笑）

#### 【新しい時代へ踏み出す】

日本はもう成長できない。7年前、この（民主党政権で苦しめられた）諦めの壁に対して、私たちはまず、三本の矢を力強く放ちました（が、やはり力弱く地面に落ちました）。（大盤振る舞いの）子育て支援、（何でもかんでも無料にすればいいと思ったので）教育無償化、更には（会社はいっぱい休んで、その間できるだけ副業や兼業で頑張つてもらうための）働き方改革。（人口が減るので、老若男女国家総動員で一億総労働社会という名の）一億総活躍社会を目指し、（この前の大学入学テストのように誰の言うことも聞かずに）まっすぐに進んでまいりました。

我が国は、もはや、かつての日本ではありません。（そう、誰もが気が付いていると思いますが、史上最低の日本なのです）。（民主党時代の）諦めの壁は、完全に（民主党を）打ち破ることができた。その自信と誇りと共に、今、ここから、日本の令和の新しい時代を、皆さん、共に、（恐らく地獄の道を）切り拓いていこうではありませんか。

#### 【アベノミクス】

今般取りまとめた新しい経済対策は、まさに、（政治家だけの）安心と（自民党の支持率の）成長の未来を切り拓くものであります。（さんざん無駄遣いしたので）事業規模26兆円に及ぶ（自民党の選挙）対策を講じることで、（野党という）自然災害からの復旧・復興に加え、（見せかけの喧嘩で国民をだまそうとする）米中貿易摩擦、（どうでもいいけど）英国のEUからの離脱など海外発の下方リスクにも（なすすべはないで、せめて私の家庭の）万全を期してまいります。

日本経済は、この7年間で（あらゆる統計を操作したので見せかけは）13%成長し、来年度予算の税収は過去最高と（いう取らぬ狸に）なりました（が、決算は知りませんよ）。公債発行は8年連続での減額であります（が補正予算でいつも増えるテクニックを今年も使います）。経済再生なくして財政健全化なし（なので、健全化なんて夢の夢ですよ）。この（嘘で塗り固められた）基本方針を堅持し、引き続き、（絶対に達成が不可能な）2025年度のプライマリーバランス黒字化を（むなしですが、とりあえず）目指します。

この6年間、（人口減をストップすると言ったことは忘れて）生産年齢人口が500万人減少する一方で、雇用は（非正規ばかり）380万人増加しました。人手不足が続く中で、最低賃金も現行方式で過去最高の上げ幅となり、史上初めて全国平均900円を超える（ほとんどの零細企業や零細商店は潰れる道をたどることになり）ました。足元では、9割近い中小企業で、賃上げが実現しています（が、今後はそれほど持ち堪えることはできずに近いうち潰れるでしょう）。

（非正規ばかり増えるので）雇用環境が（見かけ上）好転している今、就職氷河期世代の皆さんの就業を、（予算がないので）3年間集中で一気に（助成金をばらまき）拡大します。（採用する会社が例えなくとも）この世代に対象を絞った求人を解禁するなど、あらゆる（パフォーマンス重視の）施策を講じ、（就職氷河期世代の皆さんの遊ぶ）意欲、（すぐに会社を辞めた）経験、（仕事をさぼる）能力を活かせるチャンスを広げていきます。

（人が足らないので、一人で数人分働くさせるための）兼業や副業をやりやすくするため、労働時間に関するルールを明確化します。労働施策総合推進法を改正し、（桜を見る会に関する開示は一切お断りですが）大企業に中途採用・経験者採用比率の開示を求め、（1日24時間できるだけたくさんいろいろな会社で働くような）多様で柔軟な働き方が可能となるよう、（人をまるで働きバチのようにこき使う、そう、働きバチ）改革を進めます。

経済社会が大きく（下降して）変化する中、（いつでもどこでも何社でも働けるような）ライフスタイルの多様化は時代の必然であります。今こそ、日本の（まじめに働き上げるという）雇用慣行を大きく改め、（兼業や副業を増やし、専業主婦や無職高齢者を根絶するための）働き方改革を、皆さん、共に、進めていこうではありませんか。

まだまだ「働き方改革」ならぬ「働きバチ改革」の現実が続くのだが、今号はこれで終わりにして、次号に続けたいと思う。

・・・・・CEOコラムバックナンバーはこちらから→ [http://www.iva.jp/nposouken/ceo\\_column.html](http://www.iva.jp/nposouken/ceo_column.html)

#### \*編集後記\*

先日、リアル脱出ゲームに行ってきました。人生初だったので経験のある友達に教えてもらひながらやりましたが、結果は脱出失敗でした！！案外難しいものですね～。謎を解くひらめきとその答えをもとに正解を導き出す力が必要だと感じました。まあ、一番の原因是制限時間60分で全4問なのに勝手がわからなかつたので最初の1間に30分近く使つたことですけどね（笑）。

（ごんべい）